

# 地元の災害を記憶するための取り組み

## 山形県『羽越水害から50年』

**【羽越水害】**昭和42年(1967年)8月28日早朝から降り出した山形県中南部の雨は、前線の動きにつれ、28日夕刻から29日未明にかけて激しさを増し、飯豊・朝日山系を中心とする西置賜地方で未曾有(みぞう)の集中豪雨となりました。

8月28日早朝から、ゆっくりと上昇を続けていた各河川の水位は、28日の夕刻から夜半にかけ全川にわたり急激に上昇し、29日朝までには続々と警戒水位(現在の氾濫注意水位)を突破するに至りました。

その被害は 死者8人、負傷者137人、流出家屋192戸、床上浸水4,120戸、床下浸水10,149戸、農地等への浸水14,147haに達しました。被害総額は約226億3,800万円におよび、県史上空前の大被害をもたらしました。

画像:国土交通省山形河川国道事務所  
『忘れない、水害への備え〜羽越水害から50年〜』

### 子ども達による防災宣言

羽越水害から50年  
水害は、昔のことではありません。  
今日もどこかの町で  
明日、この町でおこるかもしれません。  
ぼくたち  
わたしたちは  
水害のために ふせぐこと  
とめること  
にげることをしっかり考え、取り組みます  
これからの未来もニコニコ過ごせる町になるよう  
水害に強いまちづくりのために  
わたし達の合い言葉



か 家族でかくにん ひなん場所  
わ わずれるな 水害のおそろしさ  
は ハザードマップで 守ろう命  
と つぜん雨には サイレン注意  
も 物のじゅんぴ 心のじゅんぴで そなえよう

かわはとももの合い言葉を しっかりまもっていくことをせんげんします。

(国土交通省山形河川国道事務所より抜粋)  
平成29年8月26日、山形県南陽市で「羽越(うえつ)水害50年行事 最上川防災フェア」が開催されました。甚大な被害をもたらした羽越水害の教訓を活かし、水害から身を守る防災について考えるきっかけとなるようにとの企画で、29年1月から「水防災かるた」読み句の一般公募や、「最上川カード」20種類がもらえる県内巡回パネル展など、多くのイベントで機運を盛り上げてきました。

5月からは「こともまち歩き」という取り組みが行われ、5回の出前講座で、洪水の怖さ、水害のためにできることを学び、ハザードマップを歩いて確認したのち「想定浸水深」や「洪水時避難場所」を示す看板の設置を行いました。これらの活動で多くを学んだ子供たちは、防災フェア当日に「防災宣言」を発表しました。

## 栃木県小山市 『堤防感謝祭』

### 【2015年9月関東・東北豪雨】

2015年9月7日に発生した台風18号は9月9日に東海地方へ上陸したのち、同日夜に日本海で温帯低気圧になった。この台風による直接的な被害は大きくなかったものの、日本海を北東に進む台風から変わった温帯低気圧に太平洋上から湿った暖かい空気が流れ込み、日本の東の海上から日本列島に接近していた台風17号から吹き込む湿った風とぶつかったことで南北に連なる雨雲(線状降水帯)が継続して発生。関東地方北部から東北地方南部を中心として(※茨城県、栃木県、宮城県など)24時間雨量が300ミリ以上の豪雨とそれに伴う大規模な被害をもたらした。



画像:下野新聞SOON 2017.9.18

(2017.9.18 下野新聞SOON)  
2015年9月の関東・東北豪雨で治水施設が機能したことに感謝する市の「堤防・渡良瀬(わたらせ)遊水地・排水機場」感謝祭が16日、下生井(しもなまい)の渡良瀬遊水地生井桜つつみで行われた。

豪雨で思(おもい)川の水位が上昇したものの堤防が破堤しなかったほか、緊急対応として思川などの水を取り込んだ渡良瀬遊水地第2調節池は過去最高貯留量を記録した。さらに遊水地に隣接する与良川排水機場は、与良(よら)川の大規模出水にも関わらず100時間以上にわたり稼働し続けた。

昨年に続く感謝祭には行政関係者ら約30人が出席。神事を執り行った後、「堤防感謝」などと書かれたのぼり旗を設置した。

we support ↓

**RQ**  
災害教育  
センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろうー大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』  
「すけさきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

OCTOBER  
**11**  
2017